RUMOI CITY

資料１

第7次 留萌市 総合計画（骨子素案）

豊かさと希望が響きあい
輝く次代を育む　るもい



本資料は検討段階の素案です。市民会議でのご意見や今後の検討により、内容、イラスト、レイアウトなどを変更します

ごあいさつ

計画案の確定段階で掲載します。

令和９（2027）年○月

留萌市長　益田克己

目次　Contents

基本構想 ・・・・・・・・・ 1

1 総合計画の策定
⑴ 計画を策定する目的 ・・・・・・・ 2
⑵ 計画の構成と期間 ・・・・・・・・ 3
⑶ 計画の推進と見直し ・・・・・・・ 4
⑷ 持続可能なまちづくりに向けて ・・ 4

2 まちづくりにおける主な課題 ・・・・ 5
⑴ 人口の推移と将来推計 ・・・・・・ 5
⑵ ５つの主な課題 ・・・・・・・・・ 6

3 まちの将来像 ・・・・・・・・・・・ 8

4 未来につながる３つの基本理念 ・・・ 9

基本計画

本内容は、今後調整します

資料編

計画策定の経過等

個別計画

第７次留萌市総合計画

The 7th Rumoi City Comprehensive Plan

基本構想

1 総合計画の策定

⑴ 計画を策定する目的

留萌市では、「留萌市自治基本条例（平成18年条例第40号）」に基づき、総合的かつ計画的なまちづくりを進めるため、市政運営の最上位計画として総合計画を策定しています。
現在、人口減少や少子高齢化、地域産業を支える人材の不足、公共施設や道路、上下水道などの社会基盤の老朽化に加え、デジタル化の進展や自然災害の激甚化・頻発化など、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。
こうした変化に対応し、市民の暮らしを守り、留萌のまちを次の世代へつないでいくためには、まちづくりの方向性を市民と行政が共有し、力を合わせて取り組むことが大切です。
総合計画は、留萌市が10年後に目指すまちの姿と、その実現に向けたまちづくりの方向性を示す基本的な指針です。
現行の第6次留萌市総合計画が令和８（2026）年度末で計画期間を終えることから、これまでの取組や成果、今後の課題を踏まえ、令和９（2027）年度からの10年間を計画期間とする「第7次留萌市総合計画」を策定します。

この計画を市民と行政の共通の道しるべとし、まちの将来像の実現に向けて、ともに取り組みます。



1 総合計画の策定

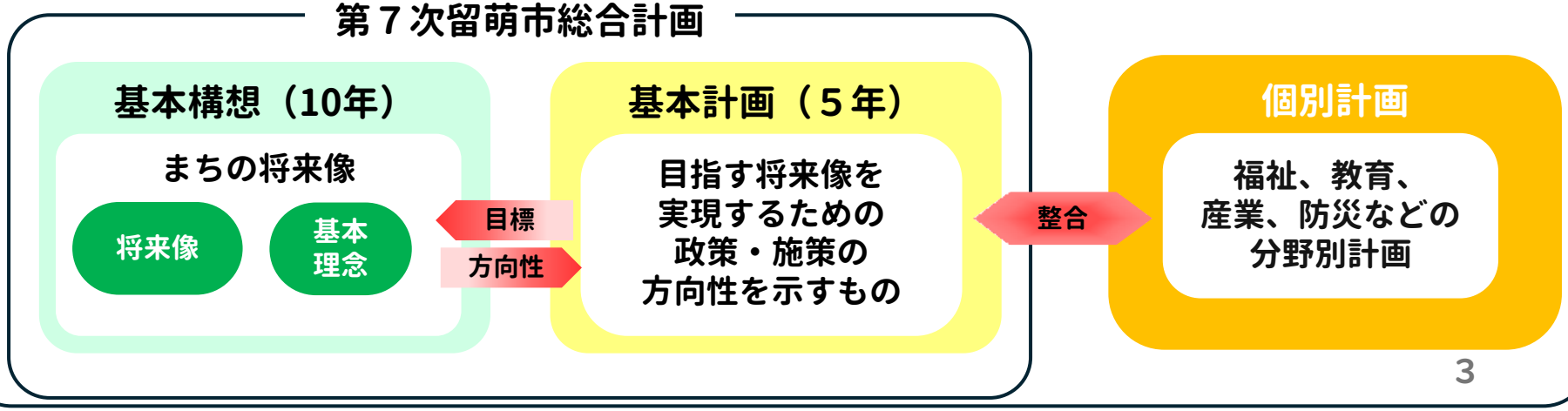
⑵ 計画の構成と期間

第７次留萌市総合計画の計画期間は、令和９（2027）年度から令和18（2036）年度までの10年間です。総合計画は、「基本構想」と「基本計画」の２つで構成します。

基本構想　留萌市が10年後に目指すまちの将来像と、まちづくりを進める上で大切にする基本理念を示します。

基本計画　基本構想に掲げるまちの将来像を実現するため、分野ごとの政策・施策の方向性を示します。基本計画の計画期間は、前期・後期それぞれ５年間とし、社会や地域の変化を踏まえて見直します。

また、福祉、教育、産業、防災などの個別計画は、総合計画と整合を図りながら進めます。取組の進捗や成果は毎年度確認し、必要に応じて内容や進め方を見直します。



1 総合計画の策定

⑶ 計画の推進と見直し

総合計画に基づく取組を着実に進めるため、毎年度、取組の進み具合や成果を確認します。

確認した結果を踏まえ、社会や地域の変化に対応できるよう、必要に応じて取組の内容や進め方を見直します。

PDCAサイクルを繰り返し、より効果的なまちづくりにつなげます。



⑷ 持続可能なまちづくりに向けて

人口減少に対応しながら、地域の活力と暮らしの質を維持し、留萌の価値と魅力を次の世代へつなぐ、持続可能なまちづくりを進めます。
また、持続可能な開発目標（SDGs）の考え方を踏まえ、各分野の取組を進めます。



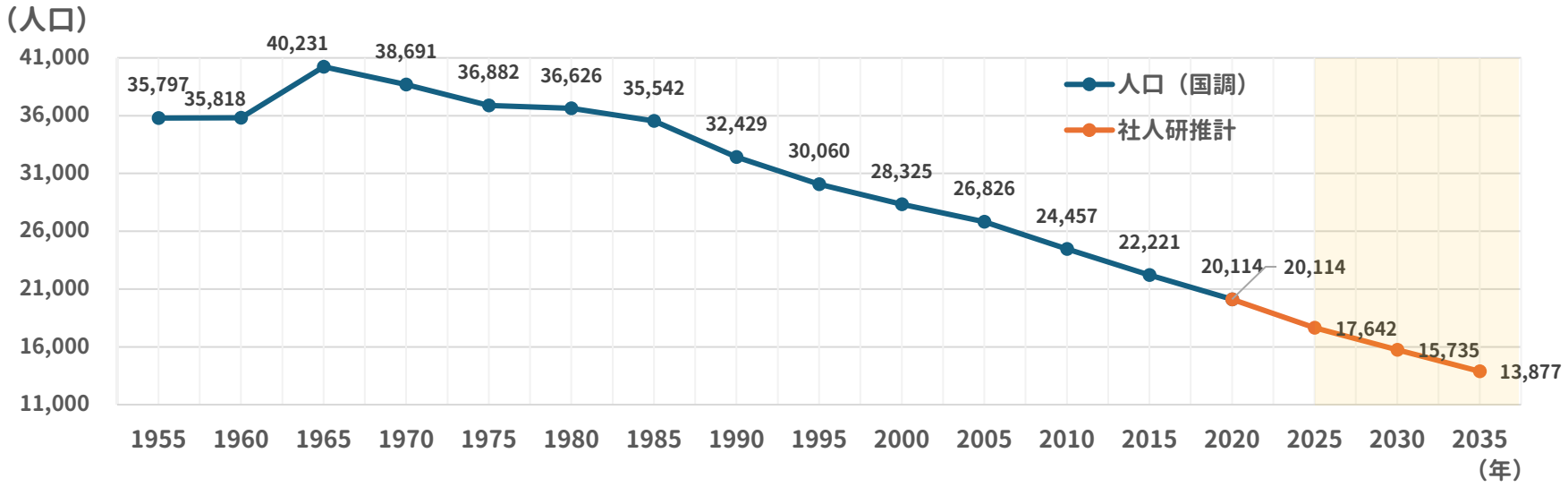
2 まちづくりにおける主な課題

⑴ 人口の推移と将来推計

留萌市の人口は、国勢調査の推移を見ると、昭和40（1965）年の40,231人をピークに減少を続け、令和２（2020）年には20,114人となり、ピーク時の約半数となりました。

国立社会保障・人口問題研究所が令和５（2023）年に公表した将来人口推計によると、令和17（2035）年の人口は13,877人と推計されています。

本格的な人口減少社会を迎える中、地域の活力を維持し、持続可能なまちづくりを進めるためには、人口減少をできるだけ抑える取組に加え、仕事づくりによって地域の稼ぐ力を高め、暮らしの質を向上させるなど、人口減少社会に対応する取組が一層重要となります。



2 まちづくりにおける主な課題

⑵ ５つの主な課題

第６次留萌市総合計画の検証結果や市民アンケート、第７次留萌市総合計画策定市民会議でいただいたご意見などを踏まえ、今後のまちづくりにおける主な課題を次の５つに整理します。

市民アンケートでは、産業・雇用、医療・健康、生活利便、福祉、子ども・若者など、市民の暮らしに身近な分野が、将来のまちに望む姿として上位に挙げられています。

① 地域経済を支える産業と働く場

人口減少や少子高齢化に伴う働き手の減少、経営者の高齢化などにより、地域産業を支える人材の確保や事業の継続が課題となっています。

地域経済の活力を維持するため、地元企業や事業者の経営基盤の強化、人材の確保・育成、事業承継を進めることが必要です。

また、起業・創業を支えるとともに、留萌の産業や地域資源を生かして新たな仕事や価値を生み出し、若者をはじめとする多様な人が安心して働き続けられる場を確保することが求められます。

② 健康・医療・福祉と地域の支え合い

人口減少と高齢化が進む中、市民の健康づくりを進めるとともに、医療や福祉を支える人材を確保し、必要なサービスを将来にわたって維持することが課題となっています。

市民一人ひとりが心身ともに健康で暮らせるよう、健康づくりや介護予防を進め、必要なときに医療や福祉サービスを受けられる環境を整えることが必要です。

また、年齢や障がいの有無などにかかわらず、誰もが自分らしく暮らせるよう、孤立を防ぎ、人と人との交流や地域のつながりを深め、互いに支え合う地域づくりが求められます。

③ 安全で便利な暮らしを支える生活環境

自然災害や犯罪から市民の生命と財産を守るとともに、公共交通、買い物、除排雪、道路、住環境、公共施設など、日常生活に必要な機能を維持することが課題となっています。
人口減少や担い手不足、施設の老朽化が進む中、災害や犯罪への備えを強化するとともに、将来の人口規模や地域の実情を踏まえ、暮らしを支える都市機能や生活基盤を持続可能な形で維持することが必要です。

また、移動手段や買い物環境などを確保し、誰もが住み慣れた地域で安全に、便利で快適に暮らし続けられる生活環境を整えることが求められます。

④ 子ども・若者の健やかな成長と可能性

少子化が進む中、安心して子どもを産み育てられる環境を整え、子どもや若者の健やかな成長を地域全体で支えることが課題となっています。

子育て家庭の負担や不安を軽減するとともに、質の高い教育、多様な学びや体験、文化・スポーツなどの機会を通じて、子どもたちの個性や可能性を育むことが必要です。

また、子どもや若者が地域に愛着を持ち、自分らしく学び、活動し、将来に希望を持って自らの可能性を広げられる環境を整えることが求められます。

⑤ 多様な力を生かす持続可能なまちづくり

人口減少や少子高齢化に伴い、地域活動やまちづくりを支える担い手の確保が課題となっています。
また、デジタル化の進展などにより、社会や市民生活を取り巻く環境が変化する中、これまでの考え方や手法だけでは対応が難しい地域課題も生じています。

こうした変化に柔軟に対応するため、デジタル技術を市民生活の利便性向上や地域課題の解決に生かすとともに、留萌の自然、産業、文化などの地域資源を守り、生かし、次の世代へつなぐことが必要です。また、誰もがまちづくりに参画できる環境を整え、市民、地域団体、事業者、関係機関、行政などの多様な主体が知恵や力を持ち寄り、地域課題の解決と新たな価値の創出に取り組むことが求められます。

豊かさと希望が響きあい
輝く次代を育む　るもい

2036年、るもいの旅。

安全・安心を暮らしの土台としながら、
仕事や日々の生活に豊かさを感じ、
住み慣れた地域で安心して
暮らし続けられるまち。

子どもたちが笑顔で健やかに成長し、
誰もが自分らしく暮らす中で、
一人ひとりの思いや幸せが響きあい、
世代を超えた信頼と支え合いが広がるまち。

豊かな自然、地域資源、文化を守り、
生かし、次の世代へつなぐとともに、
多様な人や組織が知恵と力を持ち寄り、

社会の変化を新たな可能性に変えていくまち。

こうした一人ひとりの豊かさと希望が、
人から人へ、
そして今から次の世代へと響きあい、
留萌の価値と魅力を
未来につないでいくまちの姿を、
私たちは、この将来像に込めています。

第7次留萌市総合計画策定市民会議

4 未来につながる３つの基本理念

50年後、100年後の留萌を見据えながら、今後10年間のまちづくりを進める上で大切にする3つの基本理念を掲げます。

３つの基本理念

安心と豊かさを実感し暮らし続けられるまち

自然災害や犯罪から市民の生命・財産を守るとともに、暮らしを支える都市機能や生活基盤の充実を進めます。
健康づくり、医療・福祉の充実、生活利便性の向上に取り組み、誰もが安心して暮らし続けられる環境を整えます。
また、社会経済の変化に対応しながら、地域経済を支える企業や事業者の活力向上と働く場の確保に取り組みます。
こうした取組を通じて、安全・安心を暮らしの土台としながら、一人ひとりが日々の暮らしに豊かさを実感し、住み慣れた地域で暮らし続けられるまちを目指します。

一人ひとりの幸せを育むまち

子どもがいつも笑顔でいられるよう、安心して子どもを産み育てられる環境を整えるとともに、質の高い教育や多様な学び、体験、成長の機会を通じて、子どもたちの健やかな成長を支えます。
また、人と人とのつながりを大切にし、誰もが自分らしく暮らせる環境を整えます。
さらに、地域における支え合いや交流を育み、誰もが孤立することなく、必要なときに支援を受け、互いに支え合うことができる地域づくりを進めます。
こうした取組を通じて、一人ひとりの思いや幸せが人から人へと響きあい、世代を超えた信頼と支え合いが広がり、誰もが幸せを実感し、自分らしく暮らせるまちを目指します。

希望ある未来を共に創るまち

デジタル技術を活用して、市民生活の利便性を高めるとともに、自然環境や地域資源、文化などを守り、生かし、次の世代へつなぐまちづくりを進めます。
また、年齢、性別、障がいの有無、国籍などにかかわらず、誰もがまちづくりの担い手として参画できる環境を整えます。
市民、地域団体、事業者、関係機関、行政などの多様な主体が、それぞれの知恵や力を生かし、地域の課題解決と新たな価値の創出に取り組みます。
また、社会や時代の変化を前向きに捉え、新たな技術の活用と豊かな自然環境との調和を図りながら、柔軟な発想と創意工夫によって地域の可能性を広げます。
こうした取組を通じて、留萌の価値と魅力を次の世代へつなぎ、今を暮らす一人ひとりが自分らしく活躍し、子どもや若者をはじめとする次の世代が希望を持って自らの可能性を広げられる、持続可能なまちを目指します。

第７次留萌市総合計画

The 7th Rumoi City Comprehensive Plan

基本計画